

Public Arts 18 Views in AINO

袋井市 愛野 パブリックアート 18景



元慶煥 (韓国)
17の旗
Kyung-Hwan Won (KOREA)
17 Flags
●8200×5200×5200 ステンレス

最も高い 2本の柱はワールドカップ2002 韓国・日本を表し、全体の形状は袋井市の“F”、またスポーツのシンボルとしてのフラッグ(旗)の“F”をかたどったものです。前後の斜めのラインはスタジアムや愛野駅を取り巻く低い山々を描いており、伸び上がる柱はイベントの成功と袋井市の繁栄を祈願しています。



眞板雅文 (日本)
悠久のいとなみ 2002
Masafumi Maita (JAPAN)
The Eternal 2002
●7000×5200# 鉄

長い里山での生活から得た経験をもとに、作家は自然や人間の、周囲の環境との融合をテーマとして制作しています。作品を構成する格子状の金属の中を、風が通り過ぎていきます。作品には、年ごとに足元に植えられた草が成長し絡まっていくことで変化がもたらされます。季節が変わるごとに草の色が変化し、作品も植物の力を借りて成長を続けます。



アルフレッド・ジャー (チリ)
人生劇場
Alfredo Jaar (CHILE)
The Spectacle of Life
●2600×6720×3640
鉄筋コンクリート、樹脂製イス(既製品)、ステンレス

私たちはスペクタクル(大掛かりな見世物の)社会に生きています。今日、スポーツもエンターテインメント性の追求や国家間の競争意識などによって視点をずらされ、熟達より勝利を成果として求められています。作家は、スタジアムの中にある観客席を外に持ち出すことにより、人生そのものの方が練習も脚色もなく全くリアルな面白いスペクタクルであることを示そうとしています。



ヴィト・アコンチ (アメリカ)
メビウスソファ
Vito Acconci (UNITED STATES)
Möbius Sofa
●1100×4100×4500 強化プラスチック

作家は詩人としての活躍のあと、パフォーマンスなどで美術の見方や常識を変えるような活動を行ってきました。やがてパフォーマンスの場の装置に関心が移り、現在では空間そのものを変容するような作品をつくっています。ここにある作品は、循環し続けるメビウスの輪をベンチにするもので、造形的に美しいばかりではなく、数学的で不思議な空間を楽しむことができます。



リチャード・ウィルソン (イングランド)
ファイナルコーナー, 2002
Richard Wilson (ENGLAND)
Final Corner, 2002
●各260×550# 強化ガラス、ポリカーボネート、LED、旗

舗道のカーブに設置された 17 個のステンレス楕円形ユニットは、夜間ライトで光り、スタジアムへの生き帰りの人たちを取り込みます。ユニットにはそれぞれ、16回のワールドカップ決勝進出国(2ヶ国)の国旗が日本の折り紙を思わせる形の隠喩的な布製オブジェとなってガラスの下に封入されています。2002年のワールドカップ終了後、決勝進出を果たしたブラジルとドイツの2ヶ国の国旗が 17 番目のユニットに納まり、この作品は完成されました。



グラジアーノ・ポンピリ (イタリア)
川の風景
Graziano Pompili (ITALY)
River's Landscape
●350×2600×850 250×1300×850 白大理石

人間が自然の景観の中に作り出したものはどんなものでも、そこに長い間残り続けるのだと思わせるほど周囲の環境と調和していなければならないと作家は考えます。この作品では、「家」によって人間が示され、「川」によって家が描かれています。川(自然)は岡や谷をつくり、時に家をも飲み込んでしまう。人の存在の痕跡さえも自然の中に溶け込んでゆくべきものであるということを示します。



フランク・スカルティ (フランス)
ワールドカップのためのモニュメント
Monument for the World Cup
Franck Scurti (FRANCE)
●2560×7560×2350
サッカーゴール(既製品)、ベンチ(既製品)

ゴールという非常に緊張感のある場と、ベンチというリラックスした場との対照的な状況がひとつの場所に表現されています。本来の機能から離れたサッカー・ゴールは日常風景の中に、作品を鑑賞する人が作品を構成するという面白い状況を生み出します。ゴールの中にいる人と外にいる人、そして少し楽しみながらその作品と人を見ている人との間に生じる鑑賞の倒置による効果です。



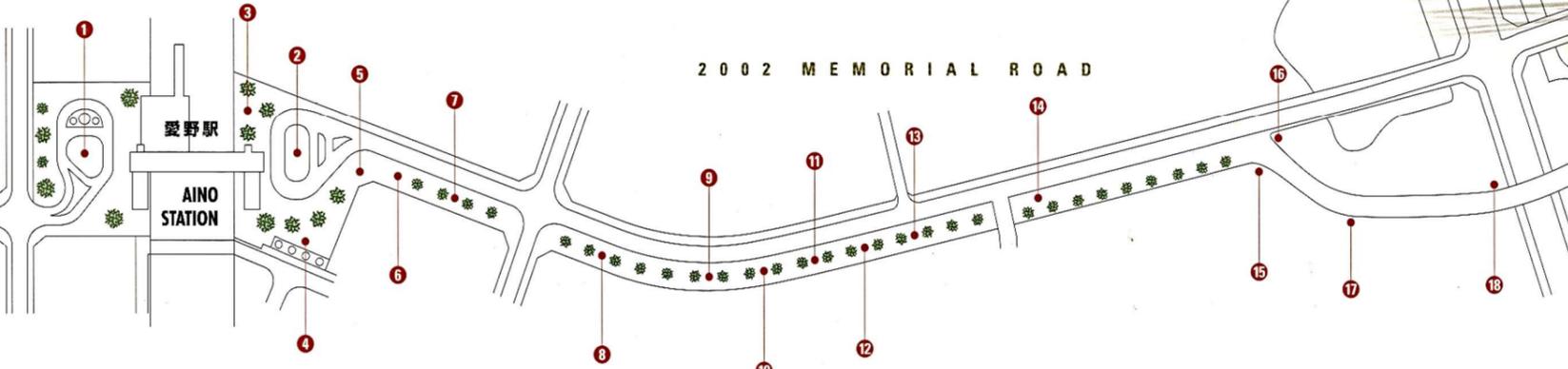
N55 (スウェーデン)
パブリックシングス
N55 (SWEDEN)
Public Things
●2600×6500×3000
ステンレスフレーム、ポリエチレンプラスチック製タンク、他

“パブリッシング”は人々に公共の場を様々な形で利用できるようにしてくれます。このシステムはいくつかの機能を有し、利用したい人は誰でも使うことができます。公共の場であれば、道・広場・建物・公園・道端などどんな場面にも設置でき、誰でも“パブリッシング”の使い方に自由に意見を述べることが出来ます。アートでありながらコミュニティのコミュニケーションツールにもなります。



リカルド・デ・マルキ (イタリア)
インゴプロ
Riccardo De Marchi (ITALY)
Ingombro
●1350×5000×450 ステンレス板

作品は無数の穴がけられたステンレスの柱で構成されています。その物質は「無のエクリチュール」です。読まれるのは、空(くう)であり、物質の欠如であり、不在です。その体積は一定ではなく、満たされることも空になることもありません。すべては二つの交差するところにあります。“インゴプロ”は存在しない場を支える支点なのです。



ロベルト・ピリス (ウルグアイ)
太陽の舟 — トリロジー
Roberto Piriz (URUGUAY)
Solar Ship — Trilogy
●H3000 木、スチールプレート

一番前にあり半月状の形を包む彫刻は船を表し、その“マスト”は天と地の間にあるものを統一するかのよう存在します。半月部分は「渦巻き」であり、至高の統一への昇華、自然と起源への簡素で純粋な関係を表しています。作品形状は垂直方向に簡素から複雑に変化し、最終的に簡素へと行き着きます。彫刻は全体で三角形の象徴性を形成し、協働とチームワークというスポーツ精神の基本を表現します。



エルンスト・ヘッセ (ドイツ)
友人のための地球型フレーム (対話)
Ernst Hesse (GERMANY)
Global Frame for Friends (Dialogue)
●2720×5000×100 コールテン鋼

この作品では「使用者—友好—対話する—彫刻」という提案がなされています。そばを通り過ぎると、楕円の大きさが変わっていくように見えます。一方、この彫刻は、その前か後ろに立つ友達をきれいな写真に撮るための額縁にもなります。作品が切り取る風景は、自然であったり、伝説であったり、またそれと対極にある近代的なものであったりしますが、作者は、そのような異質な要素を作品を通して統合しようとしています。



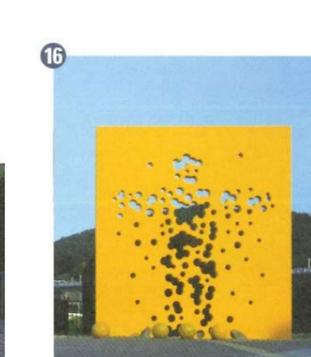
ヴェロニク・ジュマール (フランス)
鏡の木
Veronique Jourard (FRANCE)
Mirrors Tree
●H4000 ステンレスパイプ、カープミラー(既製品)

下部にベンチ、上部にコンベックス・ミラーを配したボール。人々はベンチで休憩したり、座りながら周りを眺め景色が映し出されたイメージとなって映し出されるのを見ることが出来ます。見かけと材料はシンプルで、円形の木製ベンチと、円柱状の着色されたボール上部にコンベックス・ミラーが樹木の葉のようにつけられた組み合わせとなっています。



シモン・ビール (スイス)
パラダイス — 今、あなたがいるところ
Simon Beer (SWITZERLAND)
Paradise — is exactly where you are right now
●ヒマラヤスギ、丸太材、レンガ、他

愛野駅からエコパへ向かう道の途中の小高い丘にある穏やかな休息所。ベンチ、薪置き場、水飲み場のある空間の両脇には杉の木が植えてあります。よく見るとそこはスイスのキャンプ場にいるかのようで、突然、異文化へと招かれたような気持ちになるでしょう。発見や喜びは日々の中であって、今いる場所こそがパラダイスであると作者は伝えています。



大岩オスカル幸男 (ブラジル)
空き地サッカークラブ
Oscar Satio Ojwa (BRAZIL)
Terreno Baldio F.C.
●5000×4500×300 鉄筋コンクリート、自然石

この作品は、作家がブラジルで過ごした少年時代の思い出です。サッカーをするためであれば、どこにでも近所の子どもたちがいつの間にか集まり、空き地や道路に二つの石を置いてゴールを決めて、夢中で遊びました。子どもたちが遊んだ場所はどこもボールの丸い土の跡だらけでした。



ホルヘ・イスマエル・ロドリゲス (メキシコ)
トゥラチットリの競技者
Jorge Ismael Rodriguez (MEXICO)
Player of Tlachtili
●1230×3500×1750 ブロンズ、コンクリート

私たちは今、激しいトゥラチットリ(現在のメキシコの周辺地域で、古代インディオ文明の時代に盛んだった競技)の練習の後で静かに休息を取る競技者の前にいます。伝説では神々がこの競技をたしなんだといわれています。敵と向かい合わせて二元性を持つことで、初めて「ひとつ」という概念が生まれます。つまり、神々がトゥラチットリをプレーすることは、宇宙のパラドクスを保つことにつながっていたのです。スポーツはいつの時代も村々を、町を、また国々を友好によって結びために欠かさないものです。



ジャウマ・プレンサ (スペイン)
マグリットの夢
Jaume Plensa (SPAIN)
Magritte's Dream
●2450×1600×1200 ステンレス板、強化ガラス

都会の風景は、人の魂からかけ離れて不透明で重い物質で埋めつくされ、そして私たちのいちばん壊れやすい部分を壁に押し込めてしまします。シュルレアリスムの画家のルネ・マグリットが秘密の場所から私たちの夢を見ていたように、この作品は高台の上から風景を眺めています。作品は、マグリットへのオマージュとなっていますが、作家が願っているのは、二つのベンチが他の人々と夢を分かち合えるきっかけになることです。

